

## 平成 30 年度 練馬区食育推進ネットワーク会議(第 6 期)第 1 回会議要録

- 1 開催日時  
平成 30 年 5 月 22 日(火)午後 2 時 00 分～3 時 30 分
- 2 開催場所  
練馬区役所東庁舎 702 会議室
- 3 出席者  
委員長 健康部長  
副委員長 健康部健康推進課長  
委員 市川委員、荒井委員、増子委員、谷口委員、井上委員、粕谷委員、若山委員、山田委員  
幹事 大泉保健相談所長、都市農業課農業振興係長、環境課地球温暖化対策係長、保健給食課学校給食係長、保育課保育所給食担当係長、生活衛生課食品衛生担当係長、健康推進課健康づくり係長、健康推進課歯科保健担当係長  
事務局職員 健康推進課栄養指導担当係 3 名、豊玉保健相談所栄養担当係主査  
欠席委員 坂本委員、今給黎委員、橋本委員、戸田委員、赤井委員、木川委員
- 4 公開の可否 公開
- 5 傍聴者数 0 名
- 6 配布資料  
資料 1 練馬区食育推進ネットワーク会議第 6 期 1 年目活動報告  
資料 2 第 6 期 2 年目会議日程および活動計画  
資料 3 平成 30 年度食育推進講演会について  
資料 4 平成 30 年度部会活動計画（若い世代部会）（案）  
資料 5 平成 30 年度部会活動計画（ねりまの食育応援店部会）（案）  
資料 5-1 ねりまの食育応援店 登録店（平成 30 年 5 月 1 日現在）
- 7 平成 30 年度 練馬区食育推進ネットワーク会議(第 6 期)第 1 回  
(1) 開会  
(委員長) 平成 30 年度第 1 回練馬区食育推進ネットワーク会議（第 6 期）を開会いたします。本日、坂本委員、今給黎委員、橋本委員、戸田委員、赤井委員、木川委員はご欠席ということでございます。それでは、お手元の次第に沿って進めさせていただきます。まず、平成 30 年度第 1 回目ですので、新しい委員のご紹介をさせていただきます。練馬東小学校長の山田美鈴先生です。どうぞよろしくお願いいたします。また、庁内幹事の新しいメンバーについてもご紹介をさせていただきます。都市農業課農業振興係長、保健給食課学校給食係長、健康推進課健康づくり係長、豊玉保健相談所栄養担当係主査でございます。もう一

人、石神井保健相談所栄養担当係は本日欠席させていただいております。このメンバーで1年間どうぞよろしく願いいたします。それでは、案件1 練馬区食育推進ネットワーク会議第6期1年目活動報告につきまして、事務局から資料1に基づいて説明をさせていただきます。

(事務局) 資料1の説明

(委員長) 「ちゃんとごはん」事業につきましては、食育推進ボランティアにご協力をいただいで、子どもたちが地域の大人と一汁一菜の献立を一緒に作って食べるという取組でございます。昨年度の活動についてご意見やご質問等はございませんでしょうか。次に案件2 第6期2年目の会議日程及び活動計画について、事務局から資料2と資料3のご説明をさせていただきます。

(事務局) 資料2、資料3の説明

(委員長) 委員の皆様には大変お忙しい中恐縮ではございますが、今年度も5回お集まり願いたくよろしく願いいたします。この会議は皆様に自由に意見を出していただいで、その中から事業の新しいアイデアや工夫していく点を話合うというような場でございます。ぜひいろいろなご意見をいただければと思います。次に案件3に進めさせていただきます。第6期の部会活動についてですが、特に20代～30代への食育の推進について検討する若い世代部会と、ねりまの食育応援店部会の二つの部会に分かれて活動しております。事務局から平成30年度の部会活動計画について説明させていただいた後に、委員の皆様にお一人ずつお話をいただこうと考えております。先にねりまの食育応援店部会について資料5の説明を事務局からさせていただきます。

(事務局) 資料5の説明

(委員長) それではねりまの食育応援店部会の委員の皆様に一言ずつお話をいただきたいと思ひます。

(委員) 食農は組合員の農家の方々にも義務付けられているものでございます。食のことや農のことに関しては、畑で農家の方に遠慮なく聞いていただいで結構です。中には頑固な方がいて教えてくれないなんてこともあるかもしれませんが、そういう時には遠慮なく農協にご連絡をいただければと思ひます。今年度もまた食育に携わっていきたく思ひますので、どんな部分でも結構ですから頼っていただければと思ひます。よろしく願いいたします。

(委員) この会議の委員になって最初の頃は、練馬区の食育の取組がたくさんあることに大変驚きました。今後は食育応援店の実態について自分でも目で見て確かめていきたいですし、さらには練馬区の外へPRできるような部会活動ができたらと思ひております。

(委員) 「てくてくサプリ」はとても良いと思ひます。妻がこのアプリを入れています。が、上野まで出掛けた際に26000歩で、50代1位、全体総合2位という輝か

しい成績を収めました。練馬の策略にハマっております。ねりまの食育応援店事業がこのアプリと連動して、とてもいい方向に進んでいると思います。今日は冊子「ねりコレ」を持ってきましたので皆さんに配ってもよいでしょうか。当店は今回最後のページの方に載っています。「阿波おどり定食」というお店の人気ナンバー1とナンバー2をセットにして安くしたメニューです。阿波踊りは、最初に提灯が通って、その後に踊り手がいて、最後に太鼓という隊列を組みますが、エビを提灯に例えて、踊り手をヒレカツにして、周りにカツを並べて、沿道に人が70,000人いるということを表したメニューです。今回、冊子がリニューアルされておしゃれなものに変わりました。中身もかなり変わって、それぞれのお店の看板メニュー等も載っています。今後ねりまの食育応援店がかなり増えたら、ねりコレと一緒に進めていけるお店もあるのではないかと考えています。

(委員長) 資料5の2 今年度計画の(3)情報誌については、手に取ってもらえるようなものを考えたいと考えております。また、(4)のアプリと連動した取組でいうと、お店で少し割引してもらえたり、小鉢を一個付けてもらえたりするようなインセンティブについて検討していただきたいと考えており、食育や健康づくりに繋がるような何か工夫ができないかなと考えております。また、食育応援店でお店ならではの食育活動をやっていただけるようなことを入れていきたいと考えております。そして、アプリで野菜の旬や走り等のコラムを発信するご協力をお願いしたいということも考えておまして、食育の方法についてはいろいろ工夫の仕方があると思っています。ちなみに健康推進課ではアプリで歩数ランキングのグループを作っており、私自身一生懸命歩いておりますが、グループ全員の平均でも歩数が増えました。食育もこのような形で楽しんで、練馬区の飲食店のご協力もいただきながら、ぜひ取り組んでいきたいと考えております。今お話がありましたように、やはり「食」を応援していただける確かなお店にぜひご協力いただきたいなと考えておりますので、委員の皆様からお知恵を頂戴できればと考えております。それでは次に若い世代部会の活動計画についてのご説明をさせていただきます。

(事務局) 資料4の説明

(委員長) では若い世代部会の委員の皆様へ一言ずついただきたいと思っております。

(委員) 私は東北の大震災があった後に東北の方々に話をしに行く活動を行い、そこで昔からの農家の方に出会いました。私は子どもたちに、震災を忘れてもらいたくないということもありますが、自分でお米を炊いたらご飯が食べられるということを伝えていきたいという思いがあります。この思いが私が練馬区の食育推進ボランティア講座を受けたきっかけでもあります。東北の方たちとの出会いの中で、農家の方からお米が送られてくるようになりました。それで

私は児童館でおにぎりを作って食べる活動を始めました。日程を決めないでできる活動をしたと思いましたが、今はアレルギーを持ったお子さんが多いので、作るメニューを考えると難しいこともあります。そこで児童館の館長さんが「塩むすびだったら、保護者の許可が無くても食べられるのではないかと提案してくださり、4年ほど活動しています。この活動の中では、やはりまだ忘れちゃいけないことなので東北の震災の話が続けさせていただいていることと、「ちゃんごはん」の取組と同じように、「自分でご飯が炊けるようになるために、炊き方からやってください」と児童館からも言われているので、ご飯を炊くところから子どもたちとやっています。今年は玄米と白米のおむすびの食べ比べをやる予定です。「ちゃんごはん」の活動については今年も引き続き健康推進課の方々と一緒に、自炊のススメもしていきながら、自分ができることをやっていきたいなと思っています。

(委員) 昨年度高校生対象の「ちゃんごはん」の活動をしたときのことをお話したいと思います。若い世代に実際に体験、経験してもらうことで、新たな気付きや食に対する興味を持ってもらう、若い世代は個々に抱えているものが環境や経歴等がいろいろあるので、何がヒットするのか分からないなあと思いました。今まで「ちゃんごはん」の事業で小学生に関わっていた時と違うことをものすごく実感しました。野菜の切り方を説明してから切ってもらう時に、小学生は見様見真似ですぐにやってくれたりするんですが、高校生ぐらいの若い世代の人たちって、まずは自分の頭で考えることをします。野菜を端まで切ると、最後縦長でグラグラになりますよね。そこで包丁が止まっている子がいました。後ろから見ていてなんで止まっているのかと思ったら、この後どうやって切ったらいいのかを自分で考えている葛藤が背中に見えて、これはもしや迷っているね…とあって、「ボタンとまな板に倒したら切っていけるよね」とアドバイスすると、「ほう！」みたいな感じになりました。その時の一瞬の体験が、些細なことだけれどもこういうふうになればいいのかっていうのをきっと覚えてくれるだろうなと思うんですよね。そういう機会を作れるような部会にしていけたらいいなと思っています。私は食育の講座を練馬区だけでなく区外や県外でもやっていますが、先日就労支援の方を対象に食育講座を90分行いました。その対象がまさに20代、30代だったのですが、小学生と違うので90分の中でお箸の持ち方については5分くらいでやればよいと思っていました。割り箸をお配りして、普段のお箸の持ち方をしてくださいと言って持たせたら、20人位いたうちの2人くらいがいきなり握り箸だったんですよ。えっと思って、これは5分じゃ駄目なんだなと思いました。たまたまその場にいらした方だとは思いますが。様々な生き辛さをお持ちの方々の団体でしたが、いろいろなアプローチの仕方が必要だなとすごく思いました。そし

て1回だけではなくて、何回か繰り返しアプローチしていけるようなやり方が模索できたらいいなとこの部会で思ったりもしています。資料4にある「真夏の夜のマメ」のイベントについては、ぜひ参加させていただければと思っております。よろしくお願いいたします。

(委員) 私どもが日常的に活動していることの一つは全体に広げること。ところが全体だけやってもなかなかうまくいかないのが、重点を決めて徹底的にやることも必要です。全体に広げるという点では、環境でエコライフチェックというものをやっていて、これは小・中学校ではかなり徹底してきています。以前ある小学校が環境大臣賞をもらったので、環境省がお金をかけて環境のモデル校として設備等を整えるといった話がありました。ところが、一つの学校だけ優先することはできないということがありうまくいきませんでした。また、3年程前に文京区の小学校の給食の先生がうちに来られて、ミツバチのことを聞いていかれました。その先生は東京の特徴のある給食を作りたいということで、いろいろ回っていらっしゃいました。その結果、グランプリを取られたり、本が出版されたり、雑誌に取り上げられたりと、全国区になりました。このようなPRについて、練馬区はあまりうまくない。見本になるようなモデル校は作っていいと思います。全体の面でいうと、食でも「エコライフチェック」のような、基本的なことが全校にいくようなものを作るといいと思う。それからもう一つはモデル校的なものを作って徹底的にやって、全区にPRする。「この学校ではこの取組をしてこんなに変わりましたよ」と。アレルギーの子がこんなにいた、体力的に問題がある子がこんなにいたけれども、この取組をしたからこんなに改善したというようなことを全体に広める。このように両面からいくといいと思う。他の区から見学に来るような状況を作る必要が練馬区にはあると思います。そうすればどんどん広まっていくし、実践できると思います。大学へのアプローチについては研究室の先生もいいですが、食堂を使って実際にやるということがいいのかなと思います。やはり、地方から出てきている子は食事が大変です。私自身は学生時代に徹底して食事や体のことをやりましたが、それが今でも生きていますので。

(委員長) ありがとうございます。今、若い世代部会の委員の皆様から一言いただきましたが、食育応援店部会で遅れて見えた委員の方がいらっしゃいますので、何かご意見がありましたらよろしくお願いいたします。

(委員) 私は去年から畑を借りて野菜を作っておりますが、野菜ってこんなに手間暇がかかるんだなと実感しております。この冬は大変野菜が高い時がありましたが、そんな時でも買い物に行くとこんなに安くいいのだろうかと思っていました。それだけ野菜を作ることは手間がかかるものだと実感しております。私自身の息子が一人で生活していますが、なかなか自立して作って食べる

ことはなくて、ほとんど外食をしているようです。それだったら家にいらっしやいと言っているんですが、仕事が忙しいのでなかなか時間がないんですよ。自分自身も食べることについては、食が細くなってきたりして1回で食べる量が少なくなってきたので、サプリメントも必要なのかなと思いがら過ごしているところです。自分の息子についての心配もありますが、やはり食べることは大切なことだと思っています。

(委員長) 今、部会の活動計画について委員の皆様からご意見をいただきました。山田委員は今回が初めてですが、日頃お感じなられていることでも結構ですし、今の委員の皆様のご発言を聞かれて何かありましたらお願いいたします。

(委員) 自己紹介を兼ねての話になりますが、私は練馬区内の中学校で10年体育の教員として、生活指導主任として働かせていただきました。その後、管理職として区内の中学校で4年間副校長として働かせていただき、その後、小学校の校長になりました。中学生の食については、給食で食事の仕方を見ているとすべてが分かるというか、家庭の食生活とか食のしつけとか、先程、お箸の話もありましたけれどもスプーンやフォークの使い方とか、食べ方とか偏食とか、いろいろなことがやはり外せないなと思って見てきました。また小学生は小学生で、さらに家庭の様子がよく分かります。保護者は一生懸命に取り繕っても子供はすごく正直ですので、食べ方を見ていると、家庭の中の様子がよく分かる感じがします。私は娘が二人おりまして、仕事をしながらでしたので保育園で娘二人がお世話になりました。自分の娘の食育については、保育園の先生に基盤を作っていただいたなと感謝の思いでおりますが、それを基本にして自分は、高校を卒業するまでのお弁当だけはしっかりやらなきゃ、と思っておりました。勉強は学校の先生にお願いをして、食事に関してはきちんと食べさせるというか、保証する。きちんと食べられるお弁当を、偏りの無いようにやってきました。もう娘は二人とも社会人になり私も一切手が離れています。今を考えると、自分の食生活についての反省を基に、このような食育の担当になったのかなと思っています。いろいろな方のお話を聞くと、やはり勉強にしても運動にしても、根本にあるのは食生活、生活のリズム。寝ることや食べることがないと、子供たちは健全には成長しないというのは実感しているところです。今、「食育」という言葉について誰もが使う言葉になっていることが非常にうれしいことで、教育現場だけでなく社会的に「食育」の重要性があるからこそ、皆さんが叫ばれているところかなと思っております。心配しているのが、これほど食べ物がすぐに手に入る世の中なのに、食べることに興味がない若い子がいっぱいいます。食べているくらいだったらゲームをやっていた方がいい、っていう子どもたちです。「お腹空かないの?」「食べたいっていう気持ちはないの?」って思うのですが、「あまり食べることに興味がない」って平

気で言う若者たちが結構います。そんなことも心配しながら、どうしたものかという思いで、今、お話を聞かせていただきました。それから、長らく練馬区に勤めていて初めて見させていただいたのですが、このねりコレの冊子は非常によくできているなと思って、掲載されている商品についてすべて制覇したいなと思うくらいです。中身は非常によくできていると思いますが、一言言わせていただくと表紙が少し地味に感じました。

(委員) 今までのものと比べると、少し雑誌っぽくおしゃれになったかなと思うんですが。

(委員) 中身が充実している割には、表紙がシンプルすぎるかなと思うんですよね。やっぱり「何だろう?! 見てみたい!」と思うようなのは表紙が大切だと思うので。先程若者の話が出ましたが、若者は興味があるものだったら手に取ってみたい、食べてみたいとなるんじゃないかなと思います。非常に不便な場所のお店でも、インターネットで「え!」と思ったら飛びついて爆発的に売れたりする不思議な時代になってきましたので、こういう宣伝効果とか、そこから食を伝えていくということも重要かなと思いました。

(委員長) 今日は欠席されていますが大学生の方にもこの会議に参加してもらっていて、インターネットでの発信についてのお話もいただいております。皆様からいろいろなご意見を頂戴しながら、少しでも区民の方に響く「食育」ができたかなと思います。保育園や幼稚園、小中学校での食育活動のつながりや連携についてもぜひ考えていけたらと思います。

(委員) 中学校で行っている朝ごはんコンクールだけではなく、小学校でも親と一緒におせち料理を作る等の食の取組を行っています。

(委員長) そのような取組ともコラボできるようなやり方も考えたいと思っています。

(委員) 学校の状況をお伝えするのは私の使命だと思っていますので、よろしく願いいたします。

(委員) 若い人を巻き込むにはゲーム感覚やコンクールのようなことを合わせてやるのがいいと思う。あと冊子については、自分たちの冊子を作ったときに「物語性のあるものもいい、写真並べただけじゃだめ」ってアドバイスされました。やはり手に取ってみたいというものや、「お、これ何だ?!」というものにしないとだめだと思うんですよね。興味を持てるようなものにするといいかなと思います。

(委員長) 今年、食育応援店の情報誌を作ることになっていますので、目立つものをぜひ工夫して作りたいと思っています。

(委員) 今までものは無しにして厳しい目で、新鮮な目で見ないとだめだと思います。

(委員) そして中身もきちんと考えないとだめだと思います。冊子に載っているものを食べてみて、たいしたことないじゃないかと思われたら全てが台無しになっ

てしまうんですよ。だから自分自身の活動でも、もっといいものを作るにはどうしたらいいかをいろいろと苦労しているところです。

(委員) 今冊子について表紙は目立つものがよいとか、中身がきちんとしていなくては大めだといった意見を挙げられていますが、やはり大事なところは、表紙の見た目だけではないと思います。冊子の中のお店を見てみると「練馬にはこんなにいいお店があるのね」と、自分を含め多くの区民が感じると思う。そういう点では、この冊子の構成の良し悪しではなくて、PR でかなり広まっていくと思います。私自身、この会議の委員になってから食育応援店を何軒か回ってみました。回ってみて分かったことは、やはりそこのお店の代表の商品が美味しいということです。それからお店の人が親切で対応も良い、サービスも良い、味も良い。練馬区外の友人に会う際にお土産で持っていくと「練馬にはこんなにいいものがあるの」って、言ってくれることがありますからね。このように自分のような人があちこちでPR していけるとと思います。冊子の表紙の出来もいいんですけど、PR の仕方も大きいと思います。我々区民が口コミでPR をしていくことも効果的だと思いました。

(委員) 広報をより効果的にするためには、やり方を考えなければいけないということです。

(委員長) 媒体そのものの出来の良し悪しはあると思いますが、例えばお店自身の取組について、先程物語性というお話もありましたが、どういう気持ちで皆さんが食に取り組んでおられるとか、そういうところも含めてアピールをしないと、食育応援店としては良くないのかなというふうには思います。そしてそれを口コミで区民の方に広げていただくようなことも含めて、「食育の輪」を広げていく、そして繋がるような取組をぜひしていきたい。そのために、今年度皆様から様々なご意見をいただいた方がいいものになると思いますので、今後ともぜひよろしくお願いいたします。

(委員) 若い世代部会について意見をよいでしょうか。東武練馬でシェアハウスをご夫婦でやっている方がいます。一昨年大泉から東武練馬に移転するときにご挨拶にきてくれてから付き合いがある方です。このシェアハウスではいろいろなイベントをやっているし、食事は当番ではなく手が空いた人が作るような世界が広がっています。全国にもネットワークがたくさんあってすごく力がある方々で、食育に関してもいろいろ教えていただけたと思います。絆屋さんは基本、人間関係を大切にすってポリシーでやっているの、実際にぜひ会ってみて欲しい。あとは東武練馬に寄席があって、そこで二か月に一回、東家一太郎というご夫婦の浪曲を嗜んでいるのですが、この方たちにテーマを与えると浪曲を作ってもらえたりするので、機会があれば講演会とかでPR にもなるのかと思います。落語家もお店に来てくれますし、PR の仕方はいくらで

もあるかと思っています。こういうものを伝えたいというテーマをこの人たちに伝えれば、短期間で形にもなると思います。

(委員長) 皆様からいろいろご意見をいただきましてありがとうございました。思っていた以上に議論が膨らんでしまいましたが、それだけたくさんアイデアもいただけたと思いますし、これからの取組の参考になるようなご意見も頂戴したと思います。今回いただいたご意見も踏まえまして、次回それぞれの部会で検討して、一つでも二つでも具体的な取組に繋がればと思っておりますのでよろしくお願いいたします。その他、委員の皆様や庁内幹事の皆様から紹介したいような案件等はございますか。それでは本日はお忙しい中ご協力をいただきましてありがとうございました。次回は資料2で説明した通り、7月3日に部会会議を開催させていただきます。会場は本庁舎19階の1903会議室を予定しております、ご案内につきましては改めて送付させていただきます。委員の皆様、お忙しいとは思いますがぜひよろしくお願いいたします。それでは、食育推進ネットワーク会議を閉会させていただきます。本日はありがとうございました。